（様式１）

校　種	㊛・　中 どちらかに○	学校番号	６７	学校名	宇都宮市立岡本北小学校

令和２年度　学校経営計画

１　教育目標

（１）基本目標

個々の特性や能力を最大限に伸ばし，心身ともに健康で，創造性と実践力に富み，「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに，社会の変化に向き合い，生き抜いていくために求められる力を養う。

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）

・学び合う子
・助け合う子
・鍛え合う子

【子どものスローガン】　　「つよく　やさしく　かしこい子」

２　学校経営の理念

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり，創意と活力にあふれ，児童の心を動かす教育活動を展開するとともに，「安心して生活することのできる楽しい学校」「自分の力を活かし高め合える学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

３　学校経営の方針

○　生命を尊重する心や思いやりの心を中心とした豊かな心，確かな学力の向上，健康の保持や体力増進などたくましく生きる人間力の育成，インクルーシブ教育を基にした特別支援教育の充実に努める。

○　ＩＣＴ化を進めるとともに，児童の学びを支える着実で潤いのある学校環境づくりに努める。

○　教職員としての使命と責務を自覚し，専門職として日々研鑽に努め，教員一人ひとりの指導力を高めるとともに，校内の研修会をより充実し，組織としてのチーム力の向上を図る。

○　学校，地域，家庭との連携を密にして，地域の教育資源や教育力を活用しながら，開かれた学校づくりを推進する。

○　校内業務の精選に努めながら，児童とのふれあいの時間を考慮し，勤務時間や行事等を意識した働き方を推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち，その実現に向けて，よく考え，自ら鍛え，思いやる心を磨きながら，生きる力を身に付ける児童生徒の育成

【趣旨】

児童生徒一人ひとりに，将来の夢や希望をもたせるとともに，「学ぶこと」，そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ，社会的自立を目指す教育に小中が一貫して取り組む。

【研究テーマ】

「確かな学力の向上」

「コミュニケーション能力の向上」

４　教育課程編成の方針

（１）基本方針

①本校の教育課程は，日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則等の諸法律，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の指導方針，宇都宮市教育委員会の指導方針，第２次宇都宮市学校教育スタンダード，学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。

②「１学校教育目標」及び「３学校経営の方針」「５今年度の重点目標」に則り，地域や学校，児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して，知・徳・体の調和のとれた，心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「７特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込んだ新たな教育課程を編成する。

③学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに，教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

（２）教育課程編成上の留意点

①　学び合う子を育てるために

ア　必要に応じて学年の枠を超えた繰り返し学習を行うなど,基礎的･基本的な知識や技能を確実に習得できるようにする。

イ　児童が言語活動を中心に主体的に取り組めるよう各教科等における教育活動の充実を図り，主体的・対話的で深い学びにつながるような学習を推進する。

ウ　積極的に家庭学習に取り組ませるなど，学ぶ習慣を身に付けさせ，進んで学習に取り組む意欲を高める。

エ　児童の問いや喜びを喚起することに努めるとともに，児童の思いに寄り添いながら，一人ひとりを生かす。

オ　各教科等の授業の中で，困難な課題を創意工夫しながら解決する機会を適時設けるなどして，新たな課題に取り組もうとする意欲を高める。

②　助け合う子を育てるために

ア　児童の人権感覚を磨くため，児童の言動等にきめ細かく対応する。

イ　植物の栽培や小動物の飼育等をとおして命の大切さを感得させるとともに，自他の安全を考えた行動がとれるよう場面に応じて具体的に指導し，危険に対する予知能力や判断力を身に付けるようにする。

ウ　グループ活動や学級全体の話合い・係活動を活性化し自立への見通しを持たせることで，互いの意見や考えを尊重し合いながら切磋琢磨する雰囲気を醸成する。

エ　教職員の率先垂範により，目立たない児童の頑張りを認め褒め合う機会を充実する。

オ　児童一人ひとりのよさが生きる教育活動を重視し，児童の日常生活における活躍や存在感が認められ励まされる機会を充実する。

③　鍛え合う子を育てるために

ア　自ら発言しようとしたり自ら人とかかわろうとしたりする態度の育成を図るよう努める。

イ　基本的な生活習慣を児童の発達の段階に応じて身に付けさせるため，日課の内容の工夫に努める。

ウ　給食指導や保健指導をとおして食の大切さについて意識を高めるとともに，日常的な運動量を確保するため，外遊びの奨励や体育的行事の充実を図る。

エ　きまりの意義を理解させるとともに，全校体制で，規範意識の徹底を図る。

オ　多様な体験活動をとおし，自分たちの力で困難を克服する経験を数多く積ませる。

５　今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（１）学校運営

○　児童一人一人のよさや可能性を伸ばし，困難に立ち向かうたくましい児童の育成（きらりんウォークラリーの実践）

・本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実

（２）学習指導

○　言語活動を充実させ対話的な活動へと発展させるコミュニケーション能力の育成

○　基本的な学習態度の徹底及び家庭学習の習慣化

○　ＩＣＴを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着

（３）児童生徒指導

○　自他の人権を尊重し，生き生きと自己表現できる児童の育成

○　いじめの未然防止及び規範意識や思いやりの心の育成

・　それぞれの学級で一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実

（４）健康（体力・保健・食・安全）(元気アップ教育に係る取組を含む)

○　年間を通した多様な体力向上推進計画の実践

・　自他の命の大切さを考え，危険を予測し，正しく判断して行動する児童の育成

６　学習指導，児童生徒指導，健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※　様式２～４参照

７　特色ある学校づくり等に関する取組

（１）育てたい資質・能力

・　主体的に物や人と関わり，自ら課題を解決しようとする意欲

・　自他の生命を尊重し，一人一人を認め合える人権感覚を身に付け，感性豊かで思いやりのある態度

・　自ら運動に取り組み，体力向上に取り組もうとする態度

（２）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

◇　あいさつ運動（児童会による「朝のあいさつ運動」）

◇　高学年のリーダーシップ育成と異学年の教え合い助け合い
　（縦割り班活動，縦割清掃，「きらりんウォークラリー」等）

◇　保護者や地域ボランティアの積極的活用（図書修繕，ミシンボランティア，授業）

◇　なかよし花壇での花栽培と教材園での野菜栽培

◇　幼稚園児（生活科）や高齢者（昔遊び），地域名人（総合）との交流

◇　教職員やボランティアによる読み聞かせ活動

◇　きらりん感謝祭（ボランティアや交通指導員さんへの感謝）の実施

・　安全教室の実施（各種避難訓練，健康教室，自転車免許事業）

・　安全啓発活動の実施（安全見守り隊と安全レンジャー）

・　安全マップ作り（地域の方々との交流）

・　感動体験（持久走大会）

・　音楽朝会，音楽発表等の実施

・　福祉体験（アイマスク，車椅子などの各種体験）

・　出前授業の実施

（各種出前授業，いのちの授業関係等）
・ 校外学習の実施（市施設見学，町探検，社会科校外学習）
・ 親子ふれあい活動の実施
・ 児童会主催によるスポーツ大会の実施（ドッジボール大会，長なわ大会）
・ 生き物の飼育，生き物調査（学校東側用水）の実施
・ 地域清掃の拡充（岡本城跡）

８　本市の重点施策・事業との関連

（１）地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

①基本的考え

将来の社会の姿が描きにくくなってきている時代だからこそ，自分の生き方と地域に生きる人々の幸せを結び付け，多くの人を引き付ける魅力ある地域の創造に主体的に参画できる人間を育てていくことが求められる。そのために，学校，地域，家庭，専門機関との連携を密にして，地域の教育力を活用しながら，保護者や地域から信頼される学校を目指した開かれた学校づくりを推進していかなければならない。このようにして学校教育の充実を図っていくと同時に、家庭や地域の教育力向上にも積極的に取り組んでいき、双方向による「チーム岡北」の活動を推進していく。

②主な取組
・ 学校課題や取組に関する積極的な意見交換
・ 教育活動支援部会による各種ボランティア活動の推進
・ 安全対策委員会や安全ボランティアとの連携による「安心して生活できる学校づくり」の推進
・ 地域連携係を中心とした情報の発信と収集

（２）小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

生命を尊重する心や思いやりの心など豊かな心，基礎学力の向上，健康や体力の保持増進など，たくましく生きる人間力の育成に努める。児童生徒一人ひとりに，将来の夢や希望をもたせるとともに，「学ぶこと」，そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ，社会的自立を目指す教育に小中が一貫して取り組む。

②主な取組
・ 家庭学習等の学校園共通の取組み
・ 学習に関する共通課題の洗い出し，向上策の検討
・ 全国学力学習状況調査，とちぎっ子学習状況調査，学習内容定着度調査の正答率向上を目指した基礎的な内容の徹底，習熟度別学習の効率化
・ 児童会並びに小中学校，地域が連携した「あいさつ運動」の実施

（３）不登校対策

①基本的考え
・予防や早期対応の対策，関係機関との連携を含め，定期的に不登校にかかわる検討の場を学校体制の中に常置する。
・一人一人の児童理解を基に，児童との信頼関係を築くよう，教育相談などの機会を捉えて支援していく。
・すべての教育活動をとおして，日常的に関わりながら，早期発見，早期対応に努める。また「日々の様子」に気になる児童についての様子を記録することにより，対応の参考とする。

②主な取組
・日常の観察と保護者との連携を踏まえた一人一人の児童理解に努める。

・児童が自己存在感，有用感を実感できる場や，自己実現の場を意図的に設定する。
・児童が，互いに認め合い協力し合える受容的で豊かな人間関係を実感できるとともに，規律やルールを大切にできる学級や集団づくりを常に心がける。
・「分かる授業」の実践に努めるとともに，学習面での定着不足を減らす個別指導への援助を充実する。
・「１日休んだら電話」「２日続けて休んだら家庭訪問」の合言葉のもと，学級担任が積極的に児童に関わり，早期発見・早期対応に努める。
・スクールカウンセラーを活用した相談体制を充実させたり，登校しても教室に入れない児童に対しては別室で対応したりするなど多角的・多面的な支援ができるように努める。
・「欠席状況共有シート」を活用して全教職員で情報を共有し，「チーム学校」で組織的，継続的に対応する。